

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-77	中学校	社会科	社会 (歴史的分野)	第1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	歴史 730	<b>中学社会 歴史 未来をひらく</b>		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

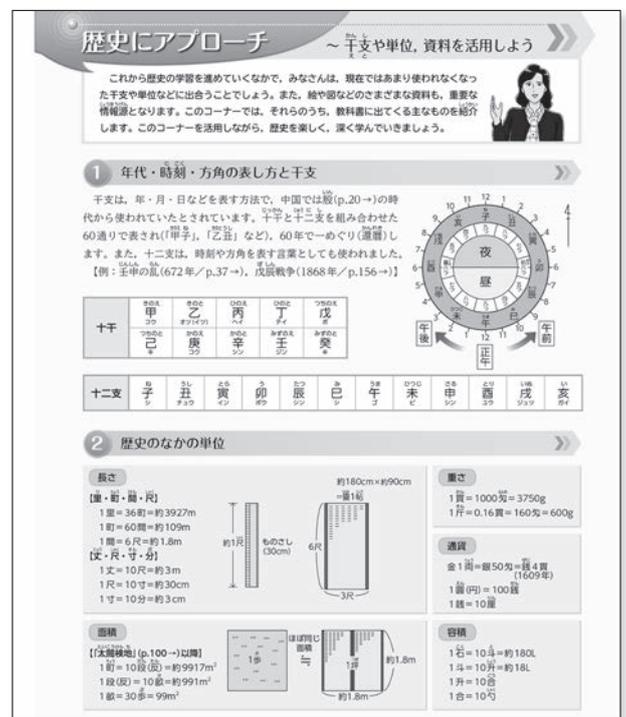
本教科書は、教育基本法に示された「教育の目標 (第二条の第1～第5号)」と、学習指導要領に示された「歴史的分野の目標」を達成し、社会科のねらいである「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことを目指して、以下の趣旨に基づき編修しています。

### ◆ 市民的教養としての基礎・基本が身に付く教科書

- 生徒が、市民社会を共に築いていくうえで必要な知識や技能を、自らの関心・意欲に沿って無理なく習得することや、その後の学習や社会生活の様々な場面に応じて活用することができます。
- 生徒が、他者とのコミュニケーションを通じて、自分の言葉で表現する力を涵養し、社会的な見方や考え方を深め合うことができます。



▲p.85 「自分なりの言葉で説明しよう」



▲p.11 「歴史にアプローチ」

「歴史にアプローチ」では、教科書に出てくる「干支や単位、資料」などを活用する方法を学びます。「自分なりの言葉で説明しよう」では、その時代のできごとや動きについて言語活動に取り組みます。こうした学習を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うようにしています。

## ◆現代社会のしくみや課題を読み解く教科書

○生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的な見方や国際的な見地から考察し、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養うことができます。

○生徒が、自分なりの枠組みで社会や世界をとらえ直し、自己との関わりを考えて、今日的な課題の所在やその解決について探究することができます。

▶「日本の領土をめぐる」では、領土をめぐる今日的課題やその歴史的経緯について認識を深めます。こうした学習を通して、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしています。



▲p.257「日本の領土をめぐる」

## ◆主権者として共に生きる力を育む教科書

○生徒が、自らも社会を形成していく市民の一人であることへの自覚を高めることができます。

○生徒が、責任ある主権者として社会に参画しようとする意思を培い、多文化共生と持続可能な社会の創造を旨として関わり続けることができます。

▶「未来をひらくために」では、これからの社会を築いていくために、自分たちがどのように関わればよいのかを考察します。こうした学習を通して、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うようにしています。



▲p.260「未来をひらくために」

また、本教科書は、特に以下の点にも留意して、単元構成や教材の選定を行っています。

### 社会を築き、動かしてきた先人の営みや、民衆の成長を浮き彫りにする教科書

▶こうした教材を通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うようにしています。



▲巻頭1・2「歴史のなかの言葉」

## 2. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第二条に示された教育の目標及び学習指導要領に示された歴史的分野の目標を達成するために、以下の柱と三つの方針に基づき編修しています。

歴史を学ぶ“楽しさ”を実感しながら、歴史の大きな流れや、各時代に生きた人々の営みについて確かな理解を図ります。

市民的教養としての基礎・基本を身に付けるために…

### 編修の柱

## 社会とつながる自己を見つめ、市民社会を共に創造する子どもの育成

歴史的事象を多面的にとらえるなかで多様な見方・考え方を培うとともに、各時代の特色や変化、世界や現代との関わりについて考察し、自分の言葉で表現する力の育成を図ります。

現代社会のしくみや課題を読み解くために…

郷土や日本の伝統と文化に対する愛着を深めるとともに、人権尊重と平和を希求する意思や、持続可能な多文化共生社会を創造する態度の育成を図ります。

主権者として共に生きる力を育むために…

## 3. 対照表

図書の内容・構成と教育基本法第二条の第1号から第5号との対応を示します。

教育基本法第二条

- 〈第1号〉幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 〈第2号〉個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 〈第3号〉正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 〈第4号〉生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 〈第5号〉伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

教科書の単元構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭：歴史のなかの言葉 歴史の学習を始めよう プロローグⅠ～地球の歴史 プロローグⅡ～点字のれきし	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 古今東西の先人の名言や地球の歴史を紹介しながら、人類の歴史への関心を高めるように構成しました。(第1号)</li> <li>○ 実際に触れる点字加工を施し、共に生きる社会のあり方について興味を喚起するように工夫しました。(第3号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭①～②</li> <li>巻頭③～④</li> <li>○巻頭⑤</li> </ul>
<b>第1章 歴史の移り変わりを考えよう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の代表的な文化遺産を豊富に掲載し、国宝・重要文化財、世界遺産にマークを付けて紹介することで、伝統・文化の意義や継承への理解を深めるようにしました。(第5号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○p.6～7</li> <li>p.4</li> </ul>
<b>第2章 原始・古代の日本と世界</b> 1 人類の出現と文明のおこり 2 日本の成り立ちと倭の王権 3 大帝国の出現と律令国家の形成 4 貴族社会の発展 学習のまとめと表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「古代中国の歴史書に記された倭」のコラムや、「木簡が語る人々の暮らし」の特設ページなどを通して、歴史の謎を紐解く楽しさを実感できるように工夫しました。(第1号)</li> <li>○ 古事記・日本書紀に記された神話を詳しく取り上げ、「黄泉の国の物語」などを通して、古代の人々の信仰やものの見方についてとらえられるように構成しました。(第5号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○p.27, 46</li> <li>p.20～21</li> <li>p.40～41</li> <li>○p.48～49</li> </ul>
<b>第3章 中世の日本と世界</b> 1 世界の動きと武家政治の始まり 2 ゆれ動く武家政治と社会 学習のまとめと表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「身近な地域の歴史」の学習では、学校外で活動する際に留意すべきマナーにも言及するようにしました。(第1号)</li> <li>○ 鎌倉・室町文化について詳しく取り上げ、現在の文化との結びつきについてとらえられるようにしました。(第5号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○p.67</li> <li>○p.62～63</li> <li>p.80～81</li> </ul>
<b>第4章 近世の日本と世界</b> 1 結びつく世界との出会い 2 天下統一への歩み 3 幕藩体制の確立と鎖国 4 経済の成長と幕政の改革 学習のまとめと表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての人の権利が守られる、差別のない社会を実現していくために、特に女性やアイヌ民族・沖縄がおかれていた立場について理解を深めるようにしました。(第3号)</li> <li>○ 桃山・元禄・化政文化について詳しく取り上げ、日本の伝統文化の特徴や、現在の文化との結びつきについてとらえられるようにしました。(第5号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○p.110～111</li> <li>p.112～113</li> <li>p.123</li> <li>○p.102～103</li> <li>p.118～119</li> <li>p.124～125</li> </ul>
<b>第5章 近代の幕開け</b> 1 近代世界の確立とアジア 2 開国と幕府政治の終わり 学習のまとめと表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 坂本龍馬や津田梅子など、幕末から明治にかけての時代の転換期に生きた多様な人物に焦点を当て、そのエピソードなどを通して時代像や個人の生き方について考察を深めるように構成しました。(第2号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○p.150</li> <li>p.170</li> </ul>
<b>第6章 近代の日本と世界</b> 1 明治維新と立憲国家への歩み 2 激動する東アジアと日清・日露戦争 3 近代の産業と文化の発展 学習のまとめと表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開国から立憲国家の成立、国際的地位の向上までの道程を詳しく取り上げ、日本が歩んだ近代化の歩みを国際情勢と関わらせてとらえられるようにしました。(第5号)</li> <li>○ 日本の公害問題の原点といわれる足尾鉬毒事件について取り上げ、環境保全への取り組みの歴史的背景について理解を深めるようにしました。(第4号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○p.144～149</li> <li>p.156～179</li> <li>○p.187</li> </ul>
<b>第7章 二度の世界大戦と日本</b> 1 第一次世界大戦と民族独立の動き 2 大正デモクラシー 3 恐慌から戦争へ 4 第二次世界大戦と日本の敗戦 学習のまとめと表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 後藤新平や杉原千畝など、大戦期に生きた多様な人物に焦点を当て、そのエピソードなどを通して時代像や個人の生き方について考察を深めるように構成しました。(第2号)</li> <li>○ 大正時代に増加したサラリーマンや女性の社会進出について取り上げ、社会の変化と人々の生活・職業との関わりをとらえられるようにしました。(第2号)</li> <li>○ 東アジア地域と日本との歴史的交流や軋轢について詳しく取り上げ、これからどのような関係を築き、課題の解決を目指していくべきか考察を深めるようにしました。(第5号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○p.230～231</li> <li>○p.208</li> <li>○p.202～203</li> <li>p.216～227</li> </ul>

教科書の単元構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<b>第8章 現代の日本と世界</b> 1 日本の民主化と冷戦 2 世界の多極化と日本 3 冷戦の終結とこれからの日本 学習のまとめと表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人類の生命と安全への脅威である核兵器の廃絶に取り組む人々や、日本へのオリンピック招致に尽力した嘉納治五郎を通して、平和を希求することの意義について考察を深めるようにしました。〈第4号, 第5号〉</li> <li>○ 日本固有の領土である北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる課題を詳しく取り上げ、対立の現状やその歴史的経緯、平和的解決へのあり方についての認識を深めるようにしました。〈第5号〉</li> <li>○ これからの社会を築いていくために、社会とどのように関わればよいのか考察する単元を最後に設定し、公民的分野の学習への橋渡しを図られるように構成しました。〈第3号〉</li> </ul>	Op.262～263  Op.257  Op.260～261
巻末：世界地図の歴史 各地の主な遺跡・史跡・できごと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界地図の歴史や、郷土の代表的な文化財・旧跡を紹介し、科学的真理の探究や、文化遺産の保全について素養を深めるように工夫しました。〈第1, 5号〉</li> </ul>	○巻末④ 巻末⑤～⑥

## 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本教科書は、教育基本法に示された義務教育の目的や、学校教育法に示された義務教育の目標などを達成するために、特に以下の点に意を用いて編修しています。

### 特色1 見やすく、わかりやすい紙面

- \*教科書の紙面は、ワイドで見やすいA B判を採用し、授業展開や学習の見通しがつかみやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成しています。
- \*興味・関心を高める写真・絵などの資料も豊富に、かつ効果的に配置しています。

### 特色2 小学校の歴史学習との接続・関連

- \*第1章では、小学校で学習した歴史上の人物や文化遺産を振り返りながら、時代区分や年表の見方を確かめる作業活動を位置づけ、中学校第1学年へのスムーズな接続を図られるようにしています。



▲p.6「タイムトラベル・サミット2016」

### 特色3 学びのユニバーサルデザインの実現と環境への配慮

- \*カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応…色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字などの工夫により、全ての生徒にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。カラーユニバーサルデザイン（CUD）は、第三者機関による審査及び認証を受けています。
- \*環境への配慮…教科書の印刷にはグリーン電力を使用し、地球環境への影響を少なくするよう配慮しています。また、再生紙と植物油インキを使用しています。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-77	中学校	社会科	社会 (歴史的分野)	第1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	歴史 730	<b>中学社会 歴史 未来をひらく</b>		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、学習指導要領に示された社会科の目標及び内容、内容の取扱いに準拠しつつ、教科と歴史的分野の改訂の要点などをふまえて、特に以下の点に意を用いて編修しています。

### ◆「歴史的分野の改訂の要点」からみた特色

#### ①歴史の大きな流れ を理解する 学習の重視

次の時代への  
変化に着目

歴史的  
事象

AがBであった  
ことの理解

時代の  
大観・特色

歴史の大きな流れ

▶p.86～87  
中世の「学習のまとめ  
と表現」+近世の「扉」

- 歴史的分野の六つの大項目に示された内容を系統的かつ効果的に学習できるように、全体を八つの章に分けています。さらに、節と単元の配列を工夫することで、**各時代の大きな流れ**をつかみやすいように構成しています。
- 各章末に設けた「学習のまとめと表現」のページでは、**時代の移り変わりを大観する構造図**を掲載するとともに、**その時代の特色**について考察・表現する活動の例を示しました。このページは、次の章の扉と合わせ、**時代の変化に着目する学習の導入**として扱うことができるように工夫しています。



- 第1章「時代の移り変わりを考えよう」では、**小学校第6学年の歴史学習との接続・関連**を図るために、歴史上の人物を焦点化して取り上げ、作業活動を通して時代の区分と移り変わりを概観できるように配慮しています。
- 巻末に掲載した歴史年表は、**原始・古代から現代までを通して一覽**できる見開きの折込で構成し、時代の移り変わりや現在からの距離をつかみやすいように工夫しています。

## ②歴史について 考察する力や 説明する力の育成

思考力・判断力・表現力



基礎的・基本的な  
知識・技能

▶▼p.135 「フランス革命」

- 社会科の基礎的・基本的な技能の習得を図るために、本文の学習の流れに即して「読み解こう」のコーナーを設け、歴史資料を読み取り、考察する学習活動を重視しました。写真・絵・地図・グラフ・文書などの多様な資料について、具体的な手がかりや問いかけをもとに取り組みなかで、**資料活用を中心とした読解力**が身に付くように配慮しています。

①左の絵で、平民を表しているのは、どの人物だろう。  
②石は、何を意味しているのだろう。  
③左右の絵を用いて、革命による社会の変化を説明してみよう。

**読み解こう**

④目 バスティューユ牢獄の襲撃  
1789年、武器をうばったバリの民衆が、政治犯を収容した牢獄で、圧政の象徴とされたバスティューを襲いました。

④ ⑤ フランス革命前の社会(左)と、革命が目ざす社会(右)を描いた風刺画。3人の人物は、聖職者・貴族・平民を表しています。

## ふりかえる

- ステップ1** 独立宣言と人権宣言を読んで、共通する言葉をあげよう。
- ステップ2** アメリカ合衆国は、どのような人たちによって建国されたか、背景をふまえて説明しよう。

- 本文の学習ごとに、学習課題と対応させた「ふりかえる」のコーナーを設けました。この時間で学習したことをもとに、「ステップ1」では基礎的事項の確認・整理、「ステップ2」では歴史的な事象についての説明や話し合いなどの表現活動と、段階的に取り組めるように工夫しています。
- 各章末の「学習のまとめと表現」のページでも、その時代のできごとや動きについて、資料などをもとに**自分なりの言葉で説明する**活動を取り入れました。

## ③近現代の学習の 一層の重視

「鎖国」→開国

倒幕→戊辰戦争

時代の転換

明治維新

- 大項目(5)と(6)に示された内容には、教科書総ページ数の約半分を充て、近現代史を重点化して取り扱うようにしました。近代については、歴史の大きな転換期である、欧米列強のアジア進出から日本の開国・維新にかけての動きを、**第5章「近代の幕開け」**として独立させた扱いにしています。
- 現代については、節ごとに「**世界→東アジア→日本**」の動きを構造化して記述することで、時代像を時間的・空間的につかみやすく構成しています。
- 北方領土・竹島の領土問題や尖閣諸島の領有**をめぐる動きについても、歴史的経緯をふまえ、地図や写真も用いて詳しく記述しています。

⇒ p.165,257

## ④ 様々な伝統や文化の学習の重視



●各時代の文化については、十分なページを充て、それぞれの特色をとらえることのできる資料を豊富に掲載しました。特に**国宝**や**重要文化財**に指定されている文化財や、**世界遺産**に登録されている遺跡や景観などについては、わかりやすい「マーク」を付けて紹介し、日本の伝統的な文化とともに、世界の多様な文化についても理解を深めることができるように配慮しています。

●「身近な地域の歴史」を調べる学習は時代ごとに設定し、郷土の伝統・文化への関心を高める着眼点を紹介したり、学び方の手がかりを「**地域調査の手引き**」として示唆したりするとともに、巻末には、地域の主な遺跡・史跡を一覧できる資料も掲載しました。

## ⑤ 日本の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実

●各節の単元構成を、基本的に「**世界の動き**⇒**日本の動き**」の順で配列し、時代背景を大局的におさえながら学習できるように配慮しました。

●世界の歴史については、文明や宗教のおこり、宗教改革と新航路の開拓、欧米諸国における近代社会の成立など、日本の歴史を理解するうえで重要な事項については、内容を拡充して扱うようにしています。

## ◆ 「教科書の構成や造本」からみた特色

### ① 基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図る構成

●本文紙面は、ワイドで見やすい**A B判**を採用し、授業の流れや学習の見通しをつかみやすいように、**1時間の授業を見開き2ページ**で構成しました。左上の部分に、学習の導入または中心となる資料を配置し、キャラクターの問いから学習を展開していく形式としています。

### 1 明治維新と立憲国家への歩み

① 万機論に決すべし

新政府は、どのように国内を統一し、政権を固めていったのでしょうか。

① 戊辰戦争 高羽・伏見や立川、会津 若狭での戦いなど、主な戦いが戊辰の年にあたる1868年に起こったことから、戊辰戦争とよばれています。

② 高羽・伏見の戦い(部分)：松林桂月画 明治神宮外苑聖徳記念絵画館蔵

③ 五畿野 北条新助(部分) 西手式の戦で、戊辰戦争の最後の戦いが行われました。新政府軍が勝利した要因は、何か。

④ 江戸城に入る天皇の一行(部分)：小堀新吉画 明治神宮外苑聖徳記念絵画館蔵

⑤ 五箇条の御誓文

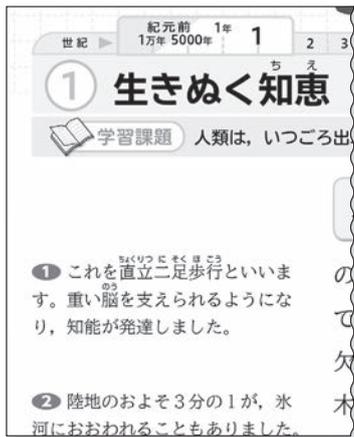
- 一、広く会議ヲ開キ万機ニ決スベシ
- 一、上下心ヲ一ニシテ職ニ親シテ行フベシ
- 一、官武ニ等級ニ置ルニ容ケ其志ヲ通ケ人心ヲシテ衆マカラシメンヲ期ス
- 一、旧来ノ制度ヲ破リ天地ノ公道ニ従フベシ
- 一、昔議ヲ世界ニ求メテ益ヲ採ルニ決スベシ

⑥ 五箇条の御誓文を読み上げる様子(部分)：花岡蘭亭画 明治神宮外苑聖徳記念絵画館蔵 全文で五箇条からなり、明治天皇が神々に誓うという形式だったことから、五箇条の御誓文とよばれています。

⑦ 同時に民衆に示された立憲(五箇条の御誓文)には、百官一民やキリスト教の禁止などが記されていました。しかし、1873年までには廃止されました。

⑧ 政府の役所も東京に集まりました。新政府は、その後もさまざまな分野で改革を推し進め、それによって社会は大きく変化しました。このような幕末から明治の初めにかけての一連の改革を**明治維新**といいます。当時の人々々は、「御一新」とよんでこの改革に期待しました。

▲p.156 ~ 157 「万機論に決すべし」



●タイトルには、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるようにしました。

●毎時間に表示した「時代スケール」により、これから学習する時代を視覚的につかめるようにしたほか、小見出しと太字の重要語句から学習のポイントをつかみやすいように工夫しています。

●難解な用語や補足説明の必要な箇所には注による解説を設け、生徒の理解への一助となるよう配慮しました。本文中には、資料との関連を示す番号や、前出・後出箇所との関連を示す参照ページも挿入しています。

## ②個に応じた学びへの対応

●本文の学習から興味や関心を広げていくコラム「歴史の窓」や、歴史を様々な側面から掘り下げていくテーマ学習のページを設け、個に応じた学びへのアプローチも保障しています。

**歴史の窓 東日本大震災**

2011年3月11日、宮城県牡鹿半島沖を震源とするマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生しました。地震で押し寄せた津波は、高さ10m以上、防潮堤を越えて最大で標高約40mの地点に達しました。この東日本大震災による死者・行方不明者は約1万9000人、全半壊した建物は約40万戸に上りました。被災地には、国内だけでなく世界各地からも多くの支援が寄せられ、復興に向けた取り組みは、現在も進められています。

▲p.259「東日本大震災」

戦争や紛争、さまざまな対立を乗り越えて平和な世界を実現するための取り組みには、どのようなものがあるでしょうか。スポーツを通じて平和を実現しようとする、オリンピックとパラリンピックについて調べてみましょう。

◎オリンピックとパラリンピックの始まり  
第1回オリンピックは、1896年、ギリシャのアテネで開催されました。フランスのクーベルタンが、古代ギリシャのオリンピア地方で行われていた「オリンピック祭典競技」の復活を提案したのが、近代オリンピックの始まりです。その後オリンピックは、人間育成と世界平和を目的として、夏季・冬季大会が4年に一度開催される世界的なスポーツの祭典となりました。パラリンピックは、第二次世界大戦で負傷した兵士のリハビリの一環として、1948年にイギリスの病院で開かれたのが始まりで、1952年に国際大会となりました。その後、障がい者アスリートによる競技スポーツへと発展し、1988年のソウル大会からは、現在のようにオリンピックの直後と同じ場所で開催されるようになりました。

◎日本で初めてのオリンピック  
ヨーロッパで始まったオリンピックを、日本で開催させようとする人々のなかには、嘉納治五郎という教育者や学校体育の先駆者もいた。嘉納は、中国からの留学生を受け入れ、スポーツを通じた国際交流を実践していました。また、伝統的な柔道を再編して柔道整復学を創設し、柔道を通じた人間教育にも取り組んでいました。このような活動が認められ、嘉納は1909年にアジアで初めての国際オリンピック委員会の委員に就任することになりました。

◎これからのオリンピックとパラリンピック  
このような歴史の上に、2020年のオリンピックとパラリンピックが、再び東京で開催されることになりました。1964年の大会ののち、日本は、先進国の一つとなりました。現在、世界や日本が抱えている、貧困や気候変動、環境問題など、さまざまな課題を乗り越えるために、

◎オリンピックの開会式で空に掲げられた五輪のマーク(1964年 東京都)

が実を結び、1940年に東京でオリンピックが開催されること一度は決定されますが、日中戦争が激しくなるなか、日本は開催を辞退し、この東京オリンピックは「夏」となりました。その後、日本で、またアジアで初めてのオリンピックが、1964年に東京で開催されました。この大会は、所得が増え、物質的な豊かさを手に入れた日本が、戦争による荒廃からの復興と、平和国家としての姿を世界に示す機会となりました。また、このオリンピックを契機に整備された新幹線や高速道路は、その後の日本の経済発展(→p.250)を支えました。

▶p.263「平和の祭典オリンピック」

## ③人と環境に優しい教科書づくり



▲読みやすさに配慮した改行の工夫

●色覚等の特性をふまえ、すべての生徒にとって学びやすいカラーユニバーサルデザイン(CUD)や特別支援教育の観点に配慮し、判読しやすい配色や表示の仕方、文字の形状(UDフォント)などを採用しています。

●巻頭図の「点字のれきし」では、実際に触って体感できる点字の加工を施し、共に生きる社会のあり方について関心を高めるようにしています。

●点字のしくみ ~ 実際に触って読んでみよう

点字とは、視覚に障がいのある人が、指先で触れて読む文字です。縦3点・横2列の合計六つの点を組み合わせることで(図の①~⑥で一つの単位)で、文字を表現します。文章は横書きで示され、左から右へ読んでいきます。

「①・②・④」の点で母音を、「③・⑤・⑥」の点で子音を表します。

みらいを ひらく

◎点字版の歴史の教科書  
古墳の形(p.28→)がわかるようにするなどの工夫もされています。

●教科書の印刷には、バイオマスで発電されたグリーン電力や、再生紙・植物油インキを使用し、環境への負荷を少なくするよう配慮しています。

## 2. 対照表

教科書の単元配列	【配当時間】	学習指導要領の内容	該当箇所
<b>巻頭：歴史のなかの言葉</b> 歴史の学習を始めよう	<b>[1]</b>	(1)ア	巻頭①～② 巻頭③～⑤
<b>第1章 歴史の移り変わりを考えよう</b>	<b>[3]</b>	(1)ア	p.6～14
<b>第2章 原始・古代の日本と世界</b> 1 人類の出現と文明のおこり 2 日本の成り立ちと倭の王権 3 大帝国の出現と律令国家の形成 4 貴族社会の発展 学習のまとめと表現	<b>[19]</b> 4 4 3 6 2	(2)ア (2)ア, ウ (1)イ (2)イ, ウ (2)イ, ウ (1)ウ	p.15 p.16～23 p.24～31 p.32～37 p.38～49 p.50～52
<b>第3章 中世の日本と世界</b> 1 世界の動きと武家政治の始まり 2 ゆれ動く武家政治と社会 学習のまとめと表現	<b>[17]</b> 7 8 2	(3)ア, イ (1)イ (3)ア, イ (4)ア (1)ウ	p.53 p.54～67 p.68～83 p.84～86
<b>第4章 近世の日本と世界</b> 1 結びつく世界との出会い 2 天下統一への歩み 3 幕藩体制の確立と鎖国 4 経済の成長と幕政の改革 学習のまとめと表現	<b>[22]</b> 5 3 5 7 2	(4)ア (4)ア (4)イ (4)ウ, エ (1)イ (1)ウ	p.87 p.88～97 p.98～103 p.104～113 p.114～127 p.128～130
<b>第5章 近代の幕開け</b> 1 近代世界の確立とアジア 2 開国と幕府政治の終わり 学習のまとめと表現	<b>[12]</b> 5 5 2	(5)ア (4)エ (5)イ (1)ウ	p.131 p.132～141 p.142～151 p.152～154
<b>第6章 近代の日本と世界</b> 1 明治維新と立憲国家への歩み 2 激動する東アジアと日清・日露戦争 3 近代の産業と文化の発展 学習のまとめと表現	<b>[19]</b> 8 6 3 2	(5)イ, ウ (5)ウ (5)エ (1)ウ	p.155 p.156～171 p.172～183 p.184～189 p.190～192
<b>第7章 二度の世界大戦と日本</b> 1 第一次世界大戦と民族独立の動き 2 大正デモクラシー 3 恐慌から戦争へ 4 第二次世界大戦と日本の敗戦 学習のまとめと表現	<b>[21]</b> 5 4 5 5 2	(5)オ (5)オ (1)イ (5)カ (5)カ (1)ウ	p.193 p.194～203 p.204～211 p.212～221 p.222～231 p.232～234
<b>第8章 現代の日本と世界</b> 1 日本の民主化と冷戦 2 世界の多極化と日本 3 冷戦の終結とこれからの日本 学習のまとめと表現	<b>[16]</b> 5 4 5 2	(6)ア (6)イ (1)イ (6)イ (1)ウ	p.235 p.236～245 p.246～253 p.254～263 p.264～266
<b>巻末：歴史年表</b> <b>世界地図の歴史</b> <b>各地の主な遺跡・史跡・できごと</b>	<b>計130</b>	(1)ウ (2)ア (4)ア (1)イ	巻末②～③ 巻末④ 巻末⑤～⑥